



園長だより

NO.40.R6.3.4(Mon)

明日3月5日(火)は啓蟄です。啓蟄とは二十四節気のひとつで、「啓」はひらく。「蟄」は動物や昆虫が冬眠の為、穴にこもるといった意味です。つまり啓蟄は冬ごもりしていた動物・昆虫が穴から出てくる、いよいよ春の始まりという事です。

待望の

志都呂幼稚園の園庭でも、先々週カエルが卵を産んでくれました〜
毎年恒例だったので、まだかまだかと待っていたら……。ふじ組の女の子が「園長先生！卵ある!!!」と大発見！みると池の淵にうねうねと黒いつぶつぶを有した筒状の物体が!! 内心、「あ〜今年もカエルさんがやと産みに来てくれた〜良かった〜」と、何ともいえない安堵と喜びが混在した思いで、子ども達と卵を見守りました。そこから1週間、卵の粒はみるみる突起し、筒からはみ出していく状態に! 更に1週間後には粒は完全にそれぞれの個体として独立し(分離し)たんです。



たかがカエルの卵、されどカエルの卵。

一見「気持ち悪い〜」と思ってしまうかもしれませんが、懸命に生きていますね〜。命を育てているんですね〜。子ども達と毎日見守っていると、寒い日も元気一杯に園庭を駆けまわり、日に日に心と身体を育み、逞しく成長していく子ども達に、なごらえて、たまらなく愛おしくかわいく見えてきてしまうんです。

今は、その丸い小さな粒から、ちこ〜んと尖った部分、頭としほがでてきている段階なんですよ。

ちいさいながらもちゃんとたままひやくしの形をしていて、かわ〜!かわ〜!

「ちちちとて、かわ〜!」
「わあ〜動いてる〜」と
小さな動きひとつひとつに
歓声を挙げる子ども達
それは、命を尊重する温かい
心も確実に育っていると
思います。

毎年園庭に訪れてくれるカエルの産卵。ふきのとう、河津桜の開花の様な春の便りに感謝し、子ども達と小さな命を見守って

いきたいと思います。
P.S. 以前、園庭に今年初めてふきのとうを発見した時の、ある先生からのコメントです。子ども達の豊かな感性の育ちに、まず前に立つ私達が何よりも豊かに接しなければいけないと思うんです。こうして職員同士(先生同士の)喜び合える環境にも感謝したひとコマでした!

今朝は、ふきのとうの発見と教えて下さり、ありがとございました!!
毎年のことですが、ふきのとうは季節の変化、訪れ(自然の)を見つけると、嬉しからたり、わいわいしたり、そんな気持ちにはなりません。小さい日々でも、心から喜び、それは発見に喜ぶ心を持つ、たいへんです。

* 学校評価・自己評価について。

今年1月に、学校評価として、近隣の有識者の方及びPTA会長様をお招きし、志都呂幼稚園参観後、教育活動を説明させて頂く会を開催させて頂きました。
その時頂いた職員
ご感想と
が一年を振り返り、反省し、次年度に向けての目標、など提出した物を、今週3/4(月)~3/8(金)週の掲示板上に公開させて頂きました。よろしかったらご覧下さい。